

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>平成 28 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
1. 事業名：食べることを支援するまちづくりⅡ～ごっくん予防プロジェクト～
2. 申請者名：特定非営利活動法人メディカルケア協会
3. 実施組織：ごっくん予防プロジェクトチーム (新宿区、新宿区歯科医師会、四谷牛込歯科医師会、新宿区医師会、慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室、特定非営利活動法人メディカルケア協会)
4. 事業の概要： 本事業では、摂食嚥下機能に関する正しい知識の普及、機能の維持向上支援を目的として、住民参加型啓発活動を推進し、以下の 2 事業を実施した。1) 本事業に対して共感を得るための働きかけと地域キーパーソン、啓発活動の担い手、協力者等の発掘、2) 地域ぐるみの啓発活動推進機運の醸成 (①地域活動団体 (高齢者サロン、食事サービス団体) と連携した啓発イベントの開催、②専門職による啓発プログラムの提供 (相談対応、摂食嚥下機能チェック、嚥下体操指導、講演等))
5. 事業の内容 食べることを支援すべき高リスク者と想定される「後期高齢者」を対象者とした高齢者サロン、食事サービス団体 (会食会) と連携して、楽しく学ぶ啓発イベントを行った。提供プログラム内容には口腔、栄養、リハビリ視点を取り入れ、講演「食べる力を鍛えよう」(歯科医師)、クラシックギター演奏会 (嚥下体操楽曲提供者による)、摂食嚥下機能チェック、口腔ケア指導、オリジナル嚥下体操、摂食嚥下機能配慮食品紹介・提供、相談などを行い、参加者アンケートも行った。実施にあたり、事前に開催地域周辺住民や団体に対して、丁寧に本事業の趣旨説明や担い手へのお誘い、啓発活動への参加呼び掛け等を行い、連携を深め、協力関係を築くことに注力した。
6. 実施後の評価 (今後の課題) サロンや食事サービス等を通じた啓発活動はお互いの活動に相乗効果を生み、有意義であった。専門職の関与により高リスク者を早期発見し、適切な介入により健康支援を行うこともできた。今後は当方が関わった時だけの取り組みに終わらせず、いかに継続してセルフケアしてもらうかが重要である。そのためには日常生活に取り入れ、習慣化してもらうこと、続けることの楽しさを感じてもらうことがポイントであり、課題といえる。今回対象を後期高齢者中心にしたが、当法人オリジナル嚥下体操ダンスについて 9 割の方が楽しい、6 割が続けたいと回答し、継続的な訓練や啓発活動への活用に適していると評価できた。また住民参加型啓発活動についても、参加者の半数以上が他の人に伝えたい、教えたいと答え、住民・地域を巻き込んだ展開への実行性が示唆された。今後さらに①インセンティブを高める手法やツール等の開発や、②積極的に啓発活動を推進する人材の育成などを行い、本事業で築いた住民との連携や啓発活動を引き続き、着実に推進していきたいと考える。